5月 教育研究所だより 東雲
第３４６号
2024年5月１日

前期研究員入所

４月１日、前期研究員４名が入所しました。半年間(しののめ教室担当は１年間)学校現場を離れ、研究に勤しみます。入所式では校長先生、指導講師の先生方の見守る中、これからの研修についての希望を語っていました。これから半年、指導講師に指導を仰ぎ、それぞれの課題に取り組みます。

研究員	領域	指導講師
喜屋武こども園 川村千秋	幼児教育	琉球大学教育学部 講師　宮城利佳子
上田小学校 赤嶺英幸	ＳＤＧｓ	琉球大学国際地域創造学部 准教授　大島順子
伊良波小学校 大城竜二	体　育	琉球大学教育学部 准教授　江藤真生子
東風平中学校 平仲麻紀	教育相談	公認心理師・臨床心理士 宮城元子

5月の主な予定

1	水	しののめ教室教育相談～5/7
7	火	所内講座「授業づくり、評価」
8	水	三線クラブスタート(全６回)
10	金	ミーティング
13	月	指導講師検討会～5/17
14	火	幼児教育短期研修(基礎ステージ)
15	水	所内講座「検証計画」「指導案作成」
16	木	しののめ教室スタッフ会議
23	木	域内適応指導教室合同体育
24	金	所内検討会
30	木	所外研修「学校施設等見学」
		しののめ教室スタッフ会議
31	金	幼児教育短期研修(自主講座①)

所長講話

「令和の日本型学校教育の実現に向けて」をテーマに所長講話を行いました。「一人一人の子供を主語にする学校教育」「ＩＣＴの活用で個別最適な学びを」「当たり前を『そもそも思考』で考える」等の講話から、研究員はこれまでの実践を振り返り、これからの教育を考える時間になりました。

【研究員感想】

○子供一人一人がワクワクするような学校ってどんな学校だろう？子供たちに聞くとヒントがたくさん得られそうだなと思いました。

○これまで無意識に平均的な学力の児童にポイント置いた授業が多かったので、個別最適な学びを実践し、全ての児童に多くの学びのある授業展開を考えたい。

○変わりゆく時代に追いつこうではなく、その先を生きていく子供たちを育てる立場として、今できることを丁寧に取り組む必要があると感じました。

組合関連施設見学

南部広域行政組合の関連施設「岡波苑・糸豊環境美化センター・美らグリーン南城・島尻環境美化センター・東部環境美化センター」を見学しました。ごみ処理施設は私たちの生活に必要不可欠です。

南部広域行政組合は、環境と教育の２本柱で南部の振興・発展に努めています。

【研究員感想】

○「もういらないから捨てよう」ではなく、本当に使えなくなるまで使い続けたり、購入する際に本当に必要なのか見定め、最終的に捨てる時のことも考えて選んでいきたい。

○「ゴミは燃やして灰になる」という認識だったが、灰にした後にもたくさんの人や施設、そしてお金が関わっていることを知り、より一層ごみを減らす大切さを痛感しました。

○資源循環型社会に役立つ施設、運用や維持にかなりのコストがかかっているお話を聞き、ごみを減らす必要性を強く感じました。